

平成 30 年 6 月 29 日

平成 30 年夏のボーナスの使い道に関する調査について

株式会社 鹿 児 島 銀 行
株式会社 九 州 経 済 研 究 所

[調査の概要]	
調査目的	県民の平成 30 年夏のボーナスの使い道に関する動向を調査し、卸・小売事業者や金融業などの事業活動に利用してもらうことを目的とする。
調査時期	平成 30 年 5 月下旬
調査対象	鹿児島銀行の県内本支店窓口来店者のうち、夏のボーナスがある家庭の方
調査方法	回答者本人が記入(無記名式)
回答数	有効回答数 598 人
回答者属性	【性別】 男性 34.3% 女性 56.5% 不明 9.2% 【年齢別】 10代 2.2% 20代 20.6% 30代 24.7% 40代 27.8% 50代 18.2% 60代 5.7% 70代以上 0.7% 不明 0.1%

【調査結果のポイント】

- ① 夏のボーナスの使い道は「生活費の補てん」(65.2%)が最多で、次に多かった「貯蓄・資産形成」(57.2%)も半数を超えた。依然として生活防衛意識が強い傾向がうかがえる。以下「旅行・レジャー費」(44.0%)、「衣料品等の購入」(29.6%)と続いた。
- ② 前回調査(平成 29 年冬)^注と比較すると、「生活費の補てん」の割合が高まった一方、「衣料品等の購入」「交際費」「外食費」などは減少した。冬と比べると衣料品は単価が低く、忘・新年会など飲み会や外食の機会が少ないためと思われる。
- ③ 使い道のうち、「貯蓄・資産形成」を選択した理由は、「将来の生活費補てんのため」が 55.2%と最も多く、次いで「老後資金の蓄え(年金資金)」(36.6%)、「特に目的はないが将来の支出のため」(32.3%)、「将来の教育費のため」(28.7%)となり、将来への備えが上位を占めた。
- ④ 「貯蓄・資産形成」の主な手段は、「預貯金(円建て)」が 83.8%と突出している。次いで、「投資信託」(20.6%)、「貯蓄型の生命保険」(17.1%)と続いた。

^注 本調査は平成 29 年冬から始めたため、今回は前年冬と比較する。

平成 30 年夏のボーナスの使い道について尋ねたところ、「生活費の補てん」(65.2%)が最多で、次に多かった「貯蓄・資産形成」(57.2%)も半数を超えた(図表 1)。以下「旅行・レジャー費」(44.0%)、「衣料品等の購入」(29.6%)などが続いた。景気回復は続いており、所得環境も改善しつつある。そうした中、将来への不安から貯蓄を優先しながらも、夏の長期休暇を利用して旅行・レジャーといったコト消費などにもある程度回すメリハリある消費傾向がうかがえた。

前回調査(平成 29 年冬)と比較すると、「生活費の補てん」の割合が高まった一方、「衣料品等の購入」「交際費」「外食費」などは減少した(図表 2)。冬と比べると衣料品は単価が低く、忘・新年会など飲み会や外食の機会が少ないためと思われる。

具体的な使い道について、「旅行・レジャー費」では「海外旅行」(20 代・男性)、「家族旅行」(30 代・女性)といった声があったほか、「衣料品等の購入」では「スーツ購入」(20 代・男性)など若年層の割合が高かった。そのほか、スマートフォンや家電、車などの購入、家のリフォーム費用、お中元の購入費など様々なものが挙げられた。

男女別にみると、「生活費の補てん」と回答した割合は女性より男性が高かった(図表 3)。一方、「理美容費(化粧品・散髪など)」「衣料品等の購入」では女性の割合が高く、積極的な消費が期待される。

使い道のうち、「**貯蓄・資産形成**」を選択した理由は、「将来の生活費補てんのため」が 55.2%と最も多く、次いで「老後資金の蓄え(年金資金)」(36.6%)、「特に目的はないが将来の支出のため」(32.3%)、「将来の教育費のため」(28.7%)となり、将来への備えが上位を占めた(図表 4)。

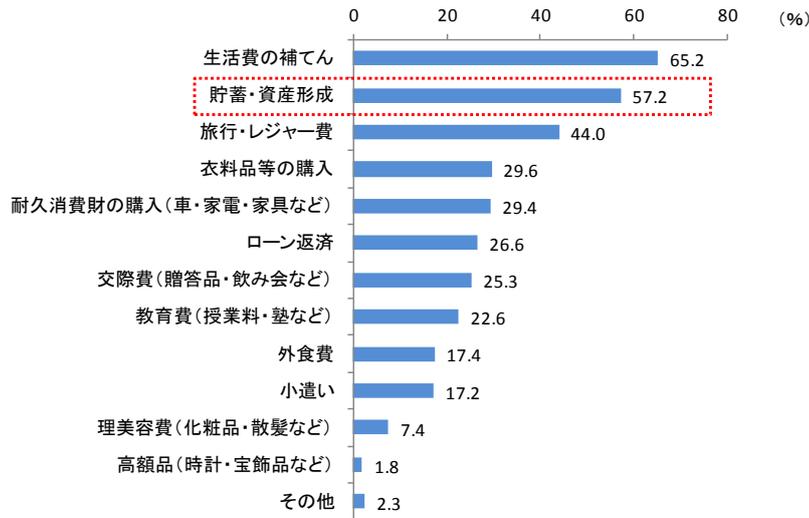
年代別にみると、10~40 代では「将来の生活費補てんのため」が最多で、特に 30~40 代は「将来の教育費のため」も上位に入り、子育て世代では増加する教育費に備えようとしている(図表 5)。50~60 代では「老後資金の蓄え(年金資金)」が最多となっている。

「**貯蓄・資産形成**」の**主な手段**は、「預貯金(円建て)」が 83.8%と突出している(図表 6)。次いで、「投資信託」(20.6%)、「貯蓄型の生命保険」(17.1%)と続いた。

以上

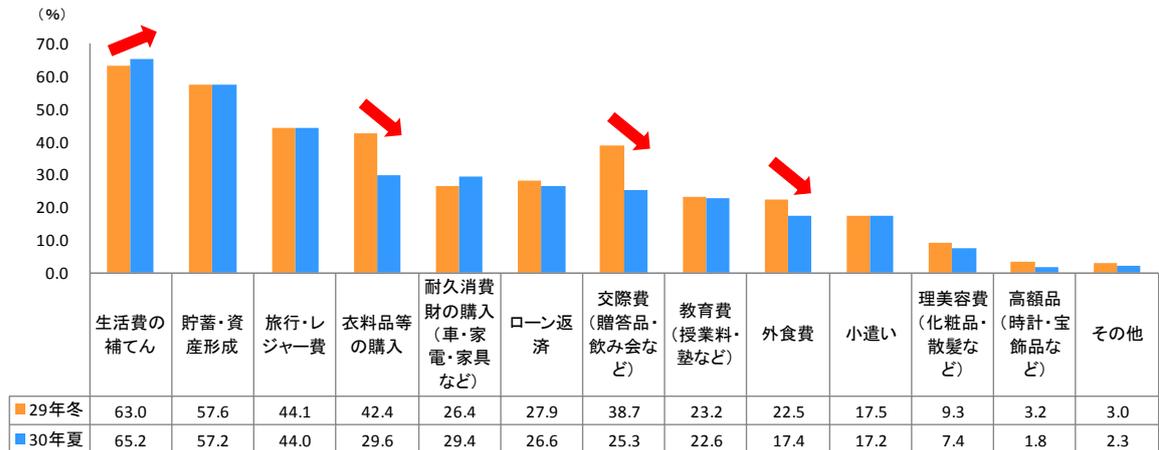
【本件に関するお問い合わせ】 ㈱九州経済研究所 (Tel 099-225-7491)

図表1 夏のボーナスの使い道



注)複数回答、図表2~3も同じ

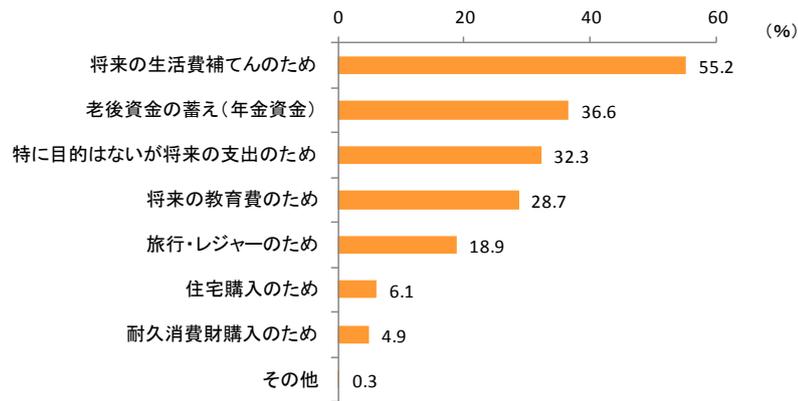
図表2 夏のボーナスの使い道(平成29年冬との比較)



図表3 夏のボーナスの使い道(男女別)

項目	全体	男 (A)	女 (B)	差 (A)-(B)
生活費の補てん	65.2	74.6	61.2	13.4
貯蓄・資産形成	57.2	54.6	58.9	▲ 4.3
旅行・レジャー費	44.0	40.5	45.9	▲ 5.4
衣料品等の購入	29.6	25.4	32.5	▲ 7.1
耐久消費財の購入(車・家電・家具など)	29.4	35.1	25.7	9.4
ローン返済	26.6	29.8	24.9	4.9
交際費(贈答品・飲み会など)	25.3	27.8	24.9	2.9
教育費(授業料・塾など)	22.6	23.4	22.5	0.9
外食費	17.4	22.9	14.5	8.4
小遣い	17.2	22.0	14.5	7.5
理美容費(化粧品・散髪など)	7.4	0.5	11.5	▲ 11.0
高額品(時計・宝飾品など)	1.8	1.5	2.1	▲ 0.6
その他	2.3	2.9	2.1	0.8

図表4 「貯蓄・資産形成」を選択した理由



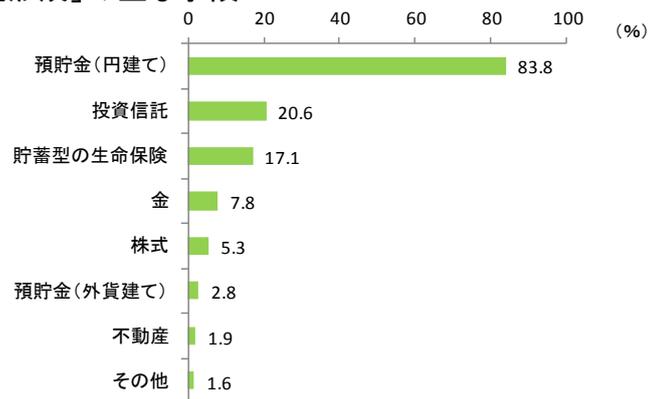
注)・複数回答

・ボーナスの使い道で「貯蓄・資産形成」を選択した人のみ回答、図表5~6も同じ

図表5 「貯蓄・資産形成」を選択した理由(年代別)

	将来の生活費補てんのため	老後資金の蓄え(年金資金)	特に目的はないが将来の支出のため	将来の教育費のため	旅行・レジャーのため	住宅購入のため	耐久消費財購入のため	その他
全体	55.2	36.6	32.3	28.7	18.9	6.1	4.9	0.3
10代	55.6	0.0	55.6	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0
20代	58.2	19.0	44.3	17.7	31.6	2.5	2.5	0.0
30代	54.8	20.2	40.5	45.2	10.7	11.9	8.3	0.0
40代	47.7	45.5	19.3	42.0	14.8	6.8	5.7	1.1
50代	65.3	71.4	22.4	8.2	20.4	0.0	4.1	0.0
60代	56.3	75.0	18.8	0.0	18.8	12.5	0.0	0.0
70代以上	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

図表6 「貯蓄・資産形成」の主な手段



<参考>

夏のボーナスの具体的な使い道(一部抜粋)

年齢	性別	具体的な使い道
10代	男性	貯金、旅行
20代	男性	貯蓄、ローン返済
20代	女性	外食や旅行費用
20代	男性	クレジットのボーナス払い
20代	男性	海外旅行
20代	男性	車検等
20代	女性	家族へのプレゼント等
20代	女性	スマホ買い替え
20代	男性	スーツ購入、必要家電購入
20代	男性	引越し、地元への帰省
30代	女性	家族旅行、車検代、貯蓄
30代	女性	ゲーム機購入
30代	女性	海外旅行
30代	女性	部活動の遠征費
30代	男性	子供の教育資金準備、車の買い替え資金準備、カードローン返済
30代	男性	有機ELテレビ購入
40代	女性	ジュエリー他
40代	女性	第一にローン返済、次に生活家電の買い替え

年齢	性別	具体的な使い道
40代	男性	税金、保険、ふるさと納税、旅行
40代	女性	子供の教育費(県外の大学のオープンスクール参加等)
40代	女性	車の買い替え
40代	女性	ほぼ全額貯蓄に回す予定
40代	女性	家のメンテナンス
40代	不明	家電の新調、マイホーム購入にあたって
40代	不明	中3娘の教育費。塾・サマースクーリング
50代	女性	大学生の授業料、海外研修費等、教育費
50代	男性	エアコン、冷蔵庫、自動車購入
50代	女性	車・スマホ買い替え
50代	男性	毎月の赤字補てん、教育費(授業料等)
50代	女性	お中元
50代	女性	住宅ローン返済、車検・税金(翌年度分)の積立
50代	女性	介護機器
50代	女性	エアコン購入
60代	女性	教育費、被服費、車検
60代	女性	旅行
60代	男性	貯蓄(老後資金の蓄え)